

豊平の匠

豊平区には、伝統の技や特殊な技術を生かして、ひとつひとつ手作りで、味わいのあるものを作る人がいます。今月は区内でそのようなものづくりや芸術に取り組んでいる人を紹介します。

乙丸木柄製作所

おとまる
乙丸 修彌さん
(豊平在住)

011(811)2777



乙丸さん

乙丸修彌さんが経営する乙丸木柄製作所は、明治三十七(一九〇四)年創業の木材加工専門の製作所で、今年でちょうど百年を迎えました。木柄とは、ハンマーやくわなどの道具の柄のことで、現在は機械で製作されていますが、かつては職人が手作業で行っていました。

乙丸木柄製作所がある豊平地区は、国道36号や、古くは定山溪鉄道が通り、交通の要として発展してきた街です。そのため、沿線には、馬車や馬そりを扱う馬具屋などが多くありました。

「創業者である私のおじいさんは、木を加工する木地師(きじし)として、主に馬車の車輪の軸などを作る仕事をしています。先代のときは、ほとんど道具の柄を作っていました」と乙丸さんは語りま

す。

昭和の初めのころから、当時の国鉄と取引を始め、保線区で使うハンマーの柄を納めていました。保線区では、線路作業員が、レールを枕木に固定するのに、専用の特殊なハンマーを使っていました。その握りやすい柄は、作業員に大変好評だったそうです。

乙丸さんが、3代目として家業を継いだのは昭和三十四(一九五九)年のことです。高校を卒業後、大学に進学しましたが、一年生のときに先代が亡くなり、大学を中退し、家業を継ぐことを決めました。

職人たちと一緒に工場で汗を流すことになった乙丸さんは「技術はすべて見よう見まねで学びました」と当時の苦労を振り返ります。

また、製作所では、一時期そりなども製作していました。「札幌で行われた冬季オリピックのときには、練習用のリユージュも作ったことがあり、思い出に残っていますね」と乙丸さん。

乙丸さんの代になってからは、旋盤機を導入し、主に、住宅の手すりとなる親柱、子柱などインテリア性の高い建具を製作しています。乙丸さんが繊細な手さばきで旋盤機を使い製作した建具は、機械だけでは表現できない美しい曲線を描く味わいのあるものばかりです。親柱、子柱は、年間で千本以上も製作しています。

そのほかに、一般の方向けには、太鼓のばち、めん棒、木材お



旋盤機で作業する乙丸さん



木材を加工した曲線が美しい親柱